



い き い き

小 富 士 っ 子



R 6 学校便り No18

令和 7. 1. 1 0

四国中央市立
小富士小学校



明けまして、おめでとうございます

今年の元旦は大変良い天気で初日の出をきれいに見ることができました。初日の出を見ると、いつも思い出すことがあります。平成 26 年（平成 25 年度）になったばかりの冬休み中に、当時、四国中央市立三島南中学校の校長を務めていた藤原健二先生が現職でご逝去されました。長い間、ずっと病魔と闘っていましたので、ついにこの日がやってきたのかと、労をねぎらう気持ちや悲しみなどで複雑だった思いが蘇ります。その年の 2 学期の健二先生は、食事には制限があり、本当は入院すべき体調のようでしたが、「**子どもたちのそばに居るのが一番の療養になる。**」と、毎日登校していました。そして、校長講話のときには、杖を突き、時には転倒しそうになりながらステージ階段を上り、ステージから力強く「**命の尊さ**」や「**人を大切にすること**」などを中学生に語り続けていました。自分の命を懸けて話していたのですから、その話には説得力がありました。そんな健二先生は、毎朝、生徒玄関前に立ち、笑顔で挨拶をしながら生徒を迎えていましたが、その前に、いつも健二先生は朝日に向かって合掌されていました。健二先生は「**眠る前には、『明日、目覚めるのだろうか』と不安になるんです。**」と話されていたので、昇る朝日を見たときに、新しい 1 日の始まりを実感していたのだらうと思います。合掌しながら「**今日の日を迎え、今日も生きている**」と、朝日に感謝の気持ちを届けていたに違いありません。令和 7 年の始まりに、私は元旦の気持ちの良い初日の出に手を合わせ、改めて、**今日を迎えられた**ことに感謝しながら、一日一日を大切に精一杯生きなければならぬと自分に言い聞かせました。私は、教育に情熱を燃やし続け、優しい生き方を貫いた健二先生を見習いたいと思います。



三学期スタート

感染症が流行していて、少し欠席者が多い始業式でしたが、学校に児童の笑顔と明るい声、そして、活気が戻ってきました。大変うれしく思います。子どもたちの表情を見ていると、新年に目標を決めて、新たな気持ちで三学期をスタートさせてくれていると感じます。三学期は、今年度の締めくくりの学期ですから、1・2 学期の学習のおさらいもしながら、1 年間に学んだことをしっかり身に付けて次の学年に進級、進学できるようにと話しました。子どもたちが更に力が付けられるよう、教職員一同、子どもたちの学びをしっかり支えたいと思います。ご家庭でも子どもたちの様子を見守り、成長を見届けてくださいますよう、よろしく願いします。ご自愛し、くれぐれも健康にはお気を付けください。もしも体調を崩されているならば、お大事にしてくださいませ。



ホームページもご覧ください。 <https://kofuji-e.esnet.ed.jp/>